

湯浅町 ため池 ハザードマップ

多くのため池は、谷の一部を堤体でせき止め、貴重な農業用水を貯めています。万が一にも堤体が決壊すると、貯留水が一気に下流に向けて流れ出します。

このハザードマップでは、豪雨や地震によってため池が決壊した場合に想定される浸水範囲の他に、避難所の位置やその他の災害情報などを記載しています。

これらの情報を参考にして、日ごろから浸水が発生しやすい場所や避難経路などを地域の皆さんや家族と共有し、どこに逃げるかを事前に考えておきましょう。

ため池防災メモ

家族と話し合ってバラバラに避難した時の集合場所などを決めておきましょう。

緊急時の集合場所

MEMO

ため池の亀裂や漏水などの異常を発見した場合、**すぐに避難して、地域の安全のために行政への連絡をお願いします。**

湯浅町役場 産業観光課
0737-63-2525 (代表)

1 もしも、ため池が決壊したら？

ため池決壊の主な原因

大雨

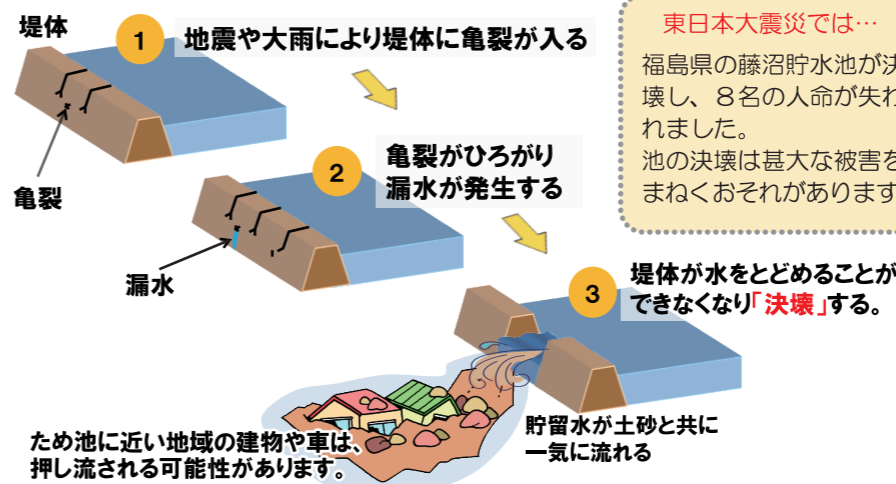


大雨でため池の水位が急激に上昇し、堤体に浸透し強度が低下したり、堤体を超えた水によって浸食されて、決壊が発生します。

地震



大規模な地震で堤体が損傷を受け、亀裂が入り漏水が起こることで、強度が低下し、水をとどめることができなくなり、決壊が発生します。



◆ 大きな地震や大雨によって、万が一にもため池の堤体が決壊した場合、一度にたくさんの水や土砂が下流に向けて流れ出します。

◆ ため池に近い場所では、水の流れが早く、押し流す力も強いいため、建物や車でさえも流される可能性があります。

◆ 水の流れが毎秒1メートルを超えると、50cmの水深でも立っていることができなくなります。すみやかに避難しましょう。

2 ため池ハザードマップの使い方は？

【1】ため池の決壊に備えて

- このハザードマップで **ご自宅の場所**を確認しましょう。
- 次に、**ため池の場所**を確認しましょう。
- ため池の決壊による「**浸水範囲**」と「**浸水深**」を確認しましょう。

5.0m 以上の浸水想定区域
2.0m～5.0m 未満の浸水想定区域
1.0m～2.0m 未満の浸水想定区域
0.5m～1.0m 未満の浸水想定区域
0.5m 未満の浸水想定区域
- ご自宅が**浸水する可能性がある**かどうか、考えましょう。

浸水範囲に入らなくても、浸水の可能性があるため注意しましょう。
- ご自宅が浸水する場合、**一時避難場所（緊急的に命の安全を確保できる場所）への避難ルート**を考えましょう。

ため池が決壊したら、早い場所では数分で決壊流が到達する可能性があります。できるだけ早く、かつ安全なルートを選ぶ必要があります。まずは命を守ることを最優先に考えましょう。
- 一時避難場所から、**避難所（避難所生活を送れる場所）へのルート**も考えておきましょう。

自宅が終わったら、自宅以外の普段過ごす場所についても考えてみましょう。

【2】災害時の注意事項

大雨の場合

- 情報の収集**
テレビやラジオなどの**気象情報**をこまめにチェックしましょう。
- 身の危険を感じたら**
町からの**避難情報**があったり、身の危険を感じたら、すみやかに**動きやすく安全な服装**での避難を始めましょう。
- 避難時の注意**
避難路は様々な危険が想定されます。**臨機応変に危険を避け、橋は極力渡らないように**一時避難場所を目指してください。特に夜間は足元が暗く危険です。懐中電灯などを用意しましょう。また、大雨の際には**段差や水路・マンホールなどに十分注意**しながら歩きましょう。すでに浸水が始まっている場合などは無理をせず高い場所で救援を待ちましょう。地震のあとには**津波のおそれ**もあります。沿岸部では避難する方向に注意しましょう。

地震の場合

- まずは命の安全を！**
地震が起きたら、まず**身の安全**を確保してください。
- 二次被害の防止（可能であれば）**
火元を確認し、消して下さい。可能であれば、**電気のブレーカーOFF**を落とし、**ガスの元栓**をしめてください。外に出るときは**歩きやすい靴を履く**ようにしましょう。

助け合い

大雨や地震の時には**津波や土砂災害などのため池の決壊以外の災害**が発生している可能性があります。他の災害にも十分注意を払いましょう。まずは**自分の命を守り**、可能であれば近所の方や、一人暮らしのお年寄りなど、助けの必要な方にも声をかけて避難しましょう。

